人生、楽しく。
とにかく楽しく。
4

アクティブシニアタウンは人生を楽しむ楽園 ラグナウッズ市に見るすばらしきセカンドライフ

楽しくて充実したセカンドライフを送るために最も重要なものは、
同じ世代、同じ階層、同じライフスタイルの人たちが集まっている
コミュニティとそこでの仲間だ、と大前氏は前回述べた。
しかし、そのようなコミュニティは、まだ日本には極めて少ない。
そこで、アクティブシニアタウンの先進国・アメリカの例を紹介する。

■大前 研一（おおまえ けんいち）

（プロフィール）
1943年福岡県生まれ。日立製作所勤務を経て、72年に経営コンサルティング会社マッキンゼー・アンド・カンパニー・インク入社。本社ディレクター、日本支社長、アジア太平洋地区会長を歴任し、95年に退社。以後も世界の大企業やアジア・太平洋における国家レベルのアドバイザーとして幅広く活躍するとともに、「ボーダレス経済学」と「地域国家論」の提唱者としてグローバルな視点と大胆な発想で活発な提言を行っている。現在は、ビジネス・ブレークスルー代表取締役、ビジネス・ブレークスルー大学院大学学長などを務める。趣味はクラリネット、オフロードバイク、スノーモビル、ジェットスキー、スキューバダイビングと多彩。著書は『旅の極意・人生の極意』（講談社）など多数。

アメリカでは、ニューヨークやボストンなど寒い北部の都市で仕事をしていた人たちがリタイアしたら、それまで暮らしていた土地を離れ、アリゾナ州のサンシティ、フェニックス、スコッツデール、カリフォルニア州のランチョ・サンタフェ、ラコスタ、パームスプリングス、フロリダ州のオーランド、ネバダ州のラスベガスといった温暖で風光明媚なリゾート地や観光地にあるアクティブシニアタウン（リタイアメント・コミュニティ）に移り住むことが当たり前になっています。

アメリカで最初のアクティブシニアタウンは、1960年からアリゾナ州フェニックスの郊外で開発が始まったサンシティです。それ以降、同様のリタイアメント・コミュニティが各地に続々と誕生しました。アメリカでカリフォルニアやアリゾナの砂漠の中に突如開けた町があれば、それは間違いなくアクティブシニアタウンです。

コミュニティの入居条件は55歳以上の元気なシニア

私はそのうちのひとつ、ロサンゼルスの南東約70のラグナウッズ市にあるラグナウッズヴィレッジを2006年に見学しました。ここは1964年に建設がスタートした西海岸で最大規模のアクティブシニアタウンです。2100エーカー（約8・5平方キロメートル）、東京ドーム約180個分もの広大な敷地内に1戸建て、マンション、高層アパートが建ち並び、約1万8000人のシニアが元気に暮らしています。

ラグナウッズ市は1999年にオレンジ・カウンティの32番目の市になりました。といっても、その市民はラグナウッズヴィレッジの住民と関係者だけ。つまり、アクティブシニアタウンそのものがひとつの自治体になっているわけで、市長も市議会議員もラグナウッズヴィレッジの住民です。

日本ではアクティブシニアタウンと老人ホームの違いがわかりにくいかもしれませんが、両者は根本的に異なります。たとえば、ラグナウッズヴィレッジに入居できるのは55歳以上の元気なシニアに限られ、病気などで介護が必要になって自立できなくなったら出ていかねばなりません。入居条件を満たしていれば、あとは敷地内の分譲住宅を買うだけ。町全体が鍵のかかる門と塀で24時間守られた、住民以外は入れないゲーテッド・コミュニティなので、住宅地として高い安全性が確保されています。

子供や孫が、1～2週間程度の短期ステイを含む訪問はできますが、同居は許されません。アメリカでは若者が町の治安を悪くしたり、車やラジカセで騒音をばらまいたりすることが多いので、そういう問題を未然に防ぐためのルールです。住民間のトラブルや事故を避けるため、犬の飼育にも厳しい制限があります。

住民が自主的に運営する270ものアクティビティ

町の中には、スーパーマーケットとレストランが入ったショッピングセンター、教会、病院、警察署、消防署、郵便局をはじめ、10ドル前後の格安料金で利用できる18ホールのゴルフコース、テニスコート、プール、フィットネスセンター、乗馬施設、劇場などの施設・設備が整っています。ゴルフコースには自宅からカートに乗って行けてしまうという便利さです。

しかも、コミュニティには約270ものアクティビティ（サークル活動、クラブ活動、カルチャー教室、趣味の集い、アトラクションなど）があります。※左記リスト参照。

これほどさまざまなアクティビティがあれば、誰でも何かに参加することができます。海外旅行のクラブもあり、なかには毎年1回、オーストラリアのリザード島へトロール・フィッシングに行く会まであります。まさにアクティブシニアです。

すべてのアクティビティは住民が組織し、掲示板で仲間を募る同好会形式で自主的に運営しています。そして、その大半は住民の中のエキスパートや若いボランティアが指導しています。コンピュータのサークルは元コンピュータエンジニア、資産運用のクラブは投資銀行に勤めていた人、という具合です。

ただし、実質的にコミュニティを動かしているのは、別組織のプロのスタッフです。その人たちが事務局のようなかたちでコミュニティ活動を取りまとめ、住民の触媒役として差し出がましくない程度にサポートしています。

住民はたいがい掛け持ちでいくつものアクティビティに参加しているので、暇を持て余すということがありません。下手をすると現役時代よりも忙しいぐらい、生き生きとした毎日を過ごしています。新しいコミュニティで新しい友達に出会う喜びが、人生の充足感につながっている――。つまり、アクティブシニアタウンは余生を静かに暮らすための場所ではなく「人生を思う存分楽しむための楽園」なのです。

●ラグナウッズ　アクティビティリスト抜粋

芸術系	音楽、絵画
ゲーム系	カードゲーム、ビリヤード、麻雀
趣味系	天文、盆栽、旅行
アウトドア系	ガーデニング、バーベキュー、釣り、ハイキング&ウォーキング
スポーツ系	バスケットボール、バレーボール、卓球、各種ダンス、ヨガ、ピラティス、自転車、ボウリング

OHMAE KENICHI

|提供| 株式会社スマートコミュニティ